

施策マネジメントシート(2018年度の振り返り、総括)

作成日 2019 年 6 月 28 日

基本目標	I	誰もが安心して安全でゆとりを感じるまち	主管課	名称 町民福祉課 課長 松井田 順一
施策	1	地域福祉の推進	関係課	

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
町民		①地域で支え合う意識を高める。 ②自立安定した生活を営む。	地域で支え合う意識の高揚	町民	地域で支え合う意識を高める。
			最低限度の生活の保障	最低生活費をまかなえない人	最低限度の生活が保障される。

施策の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民やボランティア団体、社会福祉協議会や行政等が連携し、地域において支え合い共に暮らすことができる地域社会づくりを推進します。 ・生活に困窮している町民が安定した生活を営むことができるよう、自立に向けた支援に取り組みます。
---------	---

施策の成果指標	成果指標名	単位	区分	2016年度(H28)	2017年度(H29)	2018年度(H30)	2019年度(R1)	2020年度(R2)	2021年度(R3)	2022年度(R4)
				A	ボランティア活動参加者数	人	実績値	841	832	763
B	民生委員・児童委員の地域福祉活動・自主活動件数	件	実績値	1,497	1,324	1,508				
			目標値		1,500	1,505	1,510	1,515	1,525	1,536
C			実績値							
			目標値							
D			実績値							
			目標値							
E			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法	<p>A) 数値が高まれば、町民が福祉活動を積極的に行っていると考え成果指標とした。 ※社会福祉協議会が運営するボランティアセンターで取りまとめた、ボランティア活動保険への年間加入者数</p> <p>B) 地域に根ざした民生委員・児童委員の活動件数が増えれば、地域の支え合い意識が高まり、また、生活困窮者が自立した生活を送ることに繋がると考えられるため成果指標とした。 ※民生委員・児童委員が行った地域福祉活動・自主活動の延べ件数</p>
-------------------	---

目標値設定の考え方	<p>A) 2011年の東日本大震災の復興活動でボランティア活動に参加する人が増加した。その後は大幅な増減はなく、継続して活動していることがうかがえる。現在の実績値を最低ラインとし、今後の町政を担っていく世代の方への意識付けを行うことで活動する人を増加させたく目標を設定する。</p> <p>B) 地域に根ざした民生委員・児童委員の活動指標としての地域福祉活動・自主活動件数が増えることは、地域支え合いが積極的に行われているといえることから成果指標とした。民生委員・児童委員一人が月2回活動することを目標とする。</p>
-----------	--

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会や研修会に参加して福祉活動の理解を深める。 ・自分ができる福祉活動・地域活動を見つけ、自ら参加する。 ・地域活動を通じて地域の人と世代を超えた交流を図る。 ・困っている人、援助を求めている人を見かけたら、積極的に声をかけ必要に応じて行政や警察に連絡する。 ・生活保護から早期に自立できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体の育成や情報の提供など、住民が地域福祉に参加できる体制づくりを推進する。 ・福祉教育の充実や福祉イベントの充実など、地域福祉を支える人づくりに努める。 ・被保護者や生活困窮者の生活自立を支援する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が益々進み、高齢者の単身世帯及び高齢者のみの世帯がさらに増加すると思われる。地域でお互いに助け合い生活する必要性が高まるが、高齢化に伴い元気な高齢者が担い手になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立している若者、高齢者、障害者を地域ぐるみで支える仕組み、人材の育成が必要。 ・核家族化が進んでいるので、高齢者と子どもたちのふれあえる恒常的な場所があると世代間交流が図られる。

施策	1	地域福祉の推進	主管課	名称	町民福祉課
				課長	松井田 順一

施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	実績比較		背景・要因	
	①時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①ボランティア保険加入者数は、平成23年3月11日の東日本大震災後マスコミ等の関心が高まり震災復興ボランティアの参加者が増加したが、平成25年度からは減少傾向にある。平成28年度は841人、平成29年度は832人、平成30年度は763人で前年度から69人減少している。 ②民生委員児童委員の地域福祉活動・自主活動の件数は、平成28年度1,497件、平成29年度1,324件、平成30年度1,508件であり、前年度から184件増加した。	
		②他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①ボランティア活動参加者数については、公表されていないため比較できない。 ②民生委員児童委員の地域福祉活動・自主活動の件数は、平成30年度「福祉行政報告例」より民生委員児童委員1人あたりの活動件数を換算し、比較すると、川場村40.9件、沼田市25.2件、みなかみ町23.6件、片品村13.9件、昭和村8.6件となっている。 ※平成28年度にみなかみ町地域福祉計画を策定。令和元年に見直しを予定。平成30年度に川場村が策定し、圏域全ての市町村で策定済み。
			③目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。

基本事業名	成果指標名	単位	区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				1	地域で支え合う意識の高揚	%	実績値 目標値	30.6	27.4	29.5
A	地域で支え合う福祉活動を行っている町民の割合	30.0	30.0	30.0				30.0	30.0	30.0
2	最低限度の生活の保障	%	実績値 目標値	0.58	0.60	0.57				
				A	生活保護率	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
3			実績値 目標値							
				A						
4			実績値 目標値							
				A						

基本事業名	今後の課題	今後の取り組み(案)
1	地域で支え合う意識の高揚	町民がボランティア活動に興味を持ち、活動に参加できる環境をつくる。
2	最低限度の生活の保障	生活保護になる前の段階で相談を受け、状況にあった支援策や制度の活用につなげる。
3		
4		

今後の課題と取り組み(案)		

01_地域福祉の推進

平成 30 年 8 月 16 日作成 (令和 元 年 6 月 12 日更新)

事務事業	000001	社会福祉協議会運営費補助事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	35,000,000 円				
施策体系	施策	01	地域福祉の推進			社会福祉協議会が地域住民の福祉向上のため実施している地域福祉事業及び法人運営の活動のため町から補助金を交付して支援している。		事業実績					
	基本事業	01	地域で支え合う意識の高揚					社協が実施する福祉関係事業数(補助金対象)					
根拠	無	組織	町民福祉	課	障害・福祉	係	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策				
事業期間	継続事業 ～ 年間		会計	1	款	3	項	1	目	1	平成29年度	平成30年度	単位
							課題:補助金の額について検証する。社協が担っている地域福祉事業について社会福祉協議会への補助がどこまでの範囲なのか、また町が果たすべき役割どこまでか検証する必要がある。 解決策:社協全体の経理状況がわかる資料を提出させ検証する。他町村との事業内容や町が担っている部分等を調査して比較検討する。		5	5	件		

平成 30 年 8 月 16 日作成 (令和 元 年 6 月 12 日更新)

事務事業	000002	ボランティアセンター運営支援事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	3,000,000 円				
施策体系	施策	01	地域福祉の推進			町のボランティア活動の拠点となるボランティアセンターについて、社会福祉協議会で活動を行っているため、町から補助金を交付して支援している。		事業実績					
	基本事業	01	地域で支え合う意識の高揚					ボランティア活動参加者数					
根拠	無	組織	町民福祉	課	障害・福祉	係	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策				
事業期間	継続事業 H ～ 年間		会計	1	款	3	項	1	目	1	平成29年度	平成30年度	単位
							課題:今後のボランティア団体育成等について町の役割、社協で担う役割について明確にしていく必要がある。		832	763	人		

平成 30 年 9 月 1 日作成 (令和 元 年 6 月 19 日更新)

事務事業	000003	民生委員・児童委員事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	1,957,497 円				
施策体系	施策	01	地域福祉の推進			厚生労働大臣より委嘱を受けた民生委員への期待はますます大きくなっており、その活動を支援し、他機関との連携を図ったり、研修などにより活動の充実、委員間の連絡や調整をする協議会の運営補助を町が行う。	活動していく上で必要な知識を得てもらうことを目的とした研修の場を設けた。県主催の研修会に積極的に参加を促した。	事業実績					
	基本事業	01	地域で支え合う意識の高揚					会議開催件数					
根拠	無	組織	町民福祉	課	障害・福祉	係	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策				
事業期間	継続事業 H ～ 年間		会計	1	款	3	項	1	目	1	平成29年度	平成30年度	単位
							町が直接行うことが困難な事業を実施してもらうため、事業の最適性や効果的に実施するため、現状からの改善のため、事業の充実を図るためには、人材の確保等が必要であり事業費の大幅増が考えられる。	令和元年度に一斉改選が行われる。区に協力を依頼し人材の確保に努める。	6	7	回		

平成 30 年 9 月 1 日作成 (令和 元 年 6 月 19 日更新)

事務事業	000006	更生保護女性会活動支援事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	269,300 円				
施策体系	施策	01	地域福祉の推進			更生保護女性会は地域の犯罪予防活動と犯罪をした人や非行のある少年の更生支援活動が目的。会の活動費として補助金を交付している。	無し	事業実績					
	基本事業	01	地域で支え合う意識の高揚					会議・研修会の回数					
根拠	有	組織	町民福祉	課	障害・福祉	係	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策				
事業期間	継続事業 H ～ 年間		会計	1	款	3	項	1	目	1	平成29年度	平成30年度	単位
							課題無し	無し	7	6	回		

01_地域福祉の推進

平成 30 年 8 月 16 日作成 (令和 元 年 7 月 8 日更新)

事務事業		000004		臨時福祉給付金支給事業				① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	3,179,000 円								
施策体系	施策	01	地域福祉の推進				昨年度実施した経済対策分臨時福祉給付金の精算を行います。		無し。		事業実績										
	基本事業	02	最低限度の生活の保障								支給者数										
根拠		無	組織	町民福祉		課		障害・福祉		係		②事務事業の課題			④今後の方針・課題解決策						
事業期間		期間限定事業		H	～	年間	会計	1	款	3	項	1	目	1	課題なし		事業終了。		平成29年度	平成30年度	単位
												3,877	0	人							